

## <概要>

わが国は、[ウラン](#)資源に乏しいため、必要とするウランを海外諸国に依存せざるをえない。わが国の年間需要量は2005年の約11, 100トンUから2010年には約14, 300トンUに増加すると予測されている。

2005年4月現在、わが国のウラン購入契約の状況は、長期契約、短期契約および製品輸入契約が約262, 500トンU、ニジェールとカナダ、オーストラリアからの開発輸入分が約61, 200トンUの合計約323, 700トンUである。

## <更新年月>

2006年07月

## <本文>

わが国は、ウラン資源に乏しいため、必要とするウランを海外諸国に依存せざるをえない。わが国の年間需要量は2005年の約11, 100トンUから2010年には約14, 300トンUに増加すると予測されている。2010年における世界の需要量は約65, 000～72, 000トンU程度と想定され、わが国はその約16～18%を占めることになる。[表1](#)にわが国のウラン資源量を示す。平均品位U3O8-0.054%の場合で約6, 500トンU、0.111%の場合約2, 400トンUと極めて少ない。すべて輸入により賅われている。

2005年4月現在、わが国のウラン購入契約の状況は、長期契約、短期契約および製品輸入契約が約262, 500トンU、ニジェールとカナダ、オーストラリアからの開発輸入分が約39, 000トンUの合計約323, 700トンUである（[表2](#)参照）。

一方、わが国の民間企業は、カナダ、オーストラリアおよびニジェールでウラン鉱山の経営に参加し、日本へウランを供給している。カナダでは、海外ウラン資源開発（株）（OURD）が、1999年6月に生産を開始したマククリーン鉱山と、開発を目指しているミッドウエスト鉱山に参加、また、出光興産（株）と東京電力が、2006年以降の生産開始を予定している世界最大級のシガーレイク鉱山に参加している。オーストラリアでは、日豪ウラン資源開発（株）がERA社に参加している。ERA社は、レンジャー鉱山を操業しているほか、ジャビルカ鉱山の開発を進めている。ニジェールでは、OURDがアクータ鉱山を操業するコミナック社に参加している。[図1](#)にわが国のウラン資源開発活動の領域を示す。

1998年2月に[原子力委員会](#)は、自主的な探鉱活動は必要な助成のもとで民間に委ね、核燃料サイクル開発機構（JNC（現日本原子力研究開発機構））の探鉱活動は、適当な過渡期間において廃止することが適当であると判断した。2000年11月、JNCはカナダに保有する鉱業権益を日加ウラン（株）に移転した。それら以外の鉱業権益については、2002年9月までに処理が完了し、探鉱業務を終了した。

## <関連タイトル>

[ウラン生産国と資源状況 \(04-02-01-06\)](#)

[世界のウラン資源量と需給予測（レッドブック2003） \(04-02-01-07\)](#)

[日本のウラン必要量と必要量を確保する手段 \(04-02-01-08\)](#)

[世界のウラン製錬施設 \(04-04-01-05\)](#)

[わが国の発電用ウラン輸入量の将来予測 \(04-06-01-02\)](#)

---

### <参考文献>

- (1) 日本原子力産業会議（編）：原子力ポケットブック2005年版、日本原子力産業会議（2004年7月15日）、pp.186
  - (2) 日本原子力産業会議（編集・発行）：原子力年鑑2004年版（2003年11月10日）、pp.123, 124
  - (3) 原子力委員会：核燃料サイクル開発機構の海外ウラン探鉱に係る権益等の取扱いについて（2002年8月）
-

# 表1 わが国のウラン資源量(2000年4月現在)

(2000年4月現在)

鉱山名	平均品位U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> 0.054%の場合		平均品位U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> 0.111%の場合	
	鉱量 (トン)	U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> 量 (ショート・トン)*	鉱量 (トン)	U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> 量 (ショート・トン)*
人形峠	3,737,000	2,145	707,000	809
東濃	8,035,000	5,065	1,494,000	1,941
その他	2,595,000	1,284	338,000	352
合計	14,367,000	8,494	2,539,000	3,102

(文科省研究開発局核燃料サイクル開発課)

\*:U<sub>3</sub>O<sub>8</sub> ショート・トン をトンUに換算するには表中の数値に0.769を乗ずる。

[出典] 日本原子力産業会議(編):原子力ポケットブック2001年版、日本原子力産業会議  
(2001年8月7日)、p.208

## 表2 わが国のウラン購入契約状況(2005年4月現在)

(2005年4月現在)

輸入契約形態	相手先国	契約数量 (U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> ショート・トン)*
長期契約、短期契約 及び製品購入	カナダ、イギリス、南アフリカ、 オーストラリア、フランス、アメリカ等	約 262,500
開発輸入分	産出国ニジェール(注1)、カナダ(注2) オーストラリア(注3)	約 61,200
	計	約 323,700

\*U<sub>3</sub>O<sub>8</sub>ショート・トン进行トンUに換算するには表中の数値に0.769を乗ずる。

(注1)海外ウラン資源開発(株)は、Cominak(アークタ鉱山)の権益25%を出資しており、ニジェール産ウランを日本の電力会社に供給している。

(注2)海外ウラン資源開発(株)の100%子会社であるOURDカナダ社は、マックリーンレイクJ/Vの権益7.5%、ミッドウエストJ/Vの権益4.5%を持ちカナダ産ウランを日本の電力会社に供給している。

(注3)日豪ウラン資源開発(株)は、ERA社の権益10%を持ちオーストラリア産ウランを日本の電力会社に供給している。

[出典] 日本原子力産業会議(編):原子力ポケットブック2005年版、日本原子力産業会議(2004年7月15日)、p.186

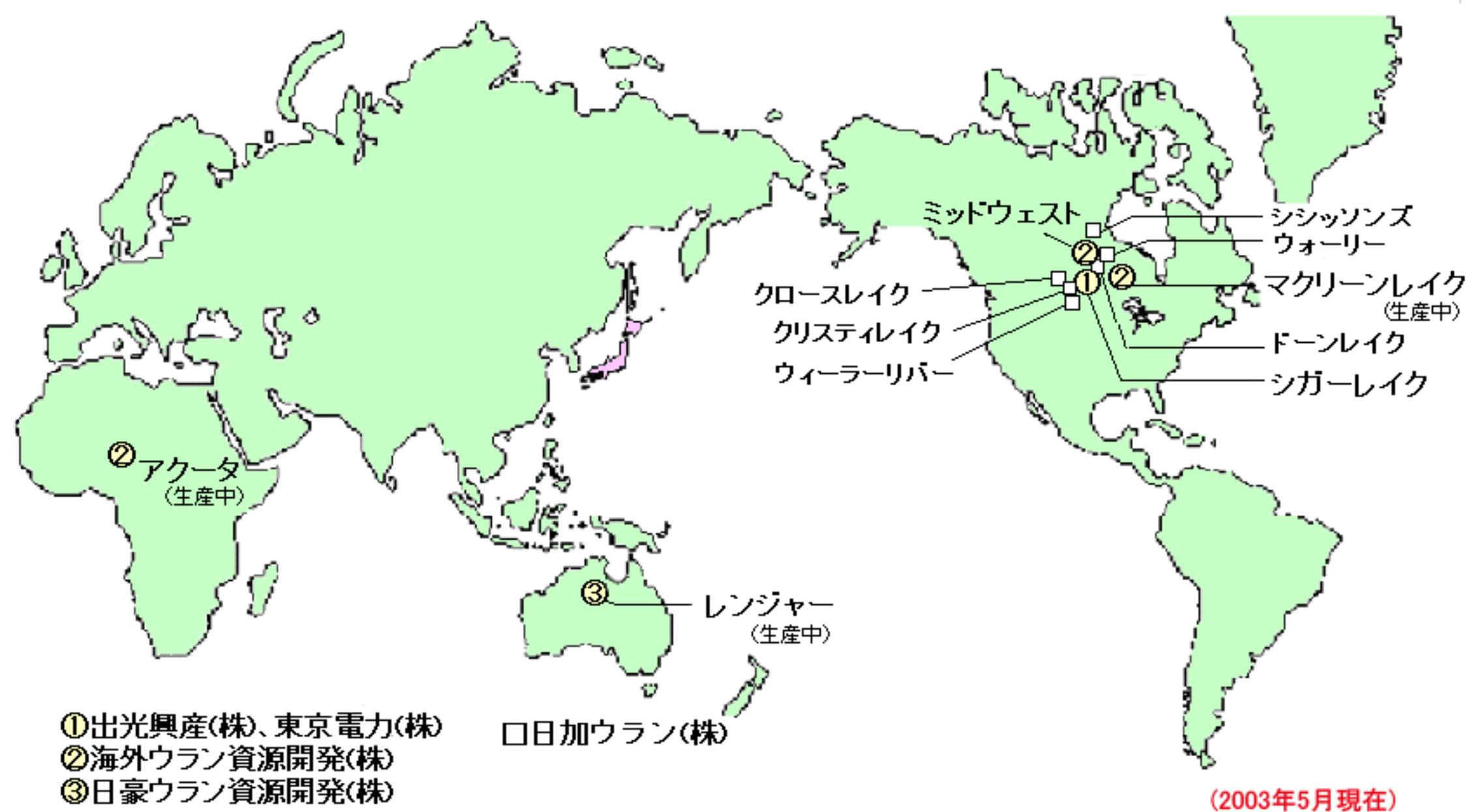


図1 わが国の資源開発活動の領域

[出典]日本原子力産業会議(編集・発行):原子力年鑑2004版(2003年11月10日)、p.124